

Tokyo
Investigative
Newsroom

Tansa



活動案内 2023-2024



大企業による公害に挑んだ 2 年間の取材から

私がダイキン工業による PFOA 汚染を知ったのは、2021 年 5 月。週に一度開かれる Tansa の編集会議で、「大阪でこんな話がある」と編集長の渡辺周から聞いたのが始まりです。

ある毒性物質が、大阪と沖縄で甚大な汚染を引き起こしているとのことでした。調べると、沖縄での汚染については、すでにマスコミが報じていました。原因は米軍基地による漏出で、米軍や日本政府の対応を求める報道がなされていました。大阪や沖縄ほどの汚染度合いでない場合でも、米軍基地による汚染が起きている全国の地域では、同様の報道がありました。

ところが、大阪の汚染について、汚染を引き起こしたダイキンの責任を追及した記事がみつからない。なぜなのか。徐々にわかってきたのは、汚染源が大企業の場合、マスコミは及び腰になるという事実でした。さらに、多数のマスコミがダイキンの広告を流していることもわかりました。

私は、ダイキンによる汚染を明るみに出せるのは、Tansa にしかできない

い仕事だと感じました。深く取材して、思い切り報じてやろうと思いました。

「私がやります」と手を挙げ、取材が始まりました。当時は、私が Tansa に入ってからちょうど 1 年。つまり、記者経験は 1 年。それでも編集長は「ええよ、どんどんやりな」と背中を押してくれました。

取材を重ねていく中で、日本の大手メディアの「職務放棄」というべき現状を目の当たりにしました。特に驚いたのは、摂津市の記者クラブです。摂津市役所には、記者室が用意されており、大手メディアの記者はいつでも市役所で取材したり、議事を傍聴したりできます。しかし、私がこれまで幾度も記者室に足を運んでも、記者がいたためしはありませんでした。

PFOA について審議される議会には、自身の血液から高濃度の PFOA が検出された男性が来ており、私にこう話しました。「傍聴席の真ん中に座ろうと思ったら、記者専用で座れませんでした。記者さんは誰もおらんかったけど、たわ。記者さんは誰もおらんかったけど、たわ。マスコミの記者たちは、一体何の

ために、誰のために、記者を名乗っているのでしょうか。

私が思う「ジャーナリスト」とは

最近、読者やジャーナリストを目指す学生から「PFOA 取材で大変なことは何でしたか？」とよく聞かれます。企業や行政の内部文書を手に入れたり、ダイキンの会長や社長を突撃取材したり、きつとスクープの裏には大変な苦労が山積みだと想像されているのでしょう。

でも、そこまで大変なことはありません。確かに、科学論文を読み込んだり、突撃取材のために張り込みをしたりしてグツタリすることもありますが、私には自由があります。好きなだけ取材して、どんなに大きい相手でも納得するまで質問を投げて、事実に向き合っていくまで動ける自由です。それが面白いんです。ジャーナリストは本来、大変な仕事ではなく、自由な仕事だと思います。

事実を掘り起こすのに、ジャーナリストとしての経験年数や所属メディアの大

シリーズは第 2 部へ

「公害 PFOA」は、まだまだ続きます。

2021 年 11 月の初報以来、本シリーズの記事は摂津市議会や国会の審議でたびたび取り上げられてきました。摂津市民がつくる「PFOA 汚染問題を考える会」は、Tansa の記事を引用し、行政やダイキンに対策を求める署名を全国から集めました。2023 年、考える会は行政やダイキンに対し、約 2 万 5 千人分の署名を提出。これを受け、ダイキンに対して指導・監督責任がある大阪府は、ダイキンに対策を求めることに明言しました。摂津市民が、日本最悪の PFOA 公害からずっと逃げてきた行政を動かしたのです。

シリーズ第 2 部では、公害を解決できない仕組みを温存する日本の構造に切り込みます。引き続き注目いただき、共に声をあげていただければ、これほど力強いものではありません。

林香里（東京大学大学院情報学環教授） 審査委員長のコメント

「課題発見部門」賞の「シリーズ 公害『PFOA』」は、国際的に規制が進む有機フッ素化合物（PFOA）による高濃度土壌汚染について、中川七海氏が様々な視点から丹念に調査した一連の報道である。PFOA は国際的には強度の毒性がある危険な化学物質として知られており、映画にもなった。しかし、日本ではほとんど知られておらず、主要メディアも大きく取り上げてこなかった。

今回対象となった記事では、専門家の調査結果とともに、PFOA を使用している企業の担当者ならびに地方自治体担当者への取材インタビューをし、さらに情報公開請求などでより詳しい情報を入手しながら、高濃度土壌汚染が放置されている状況について詳述している。環境省、自治体、そして企業の責任を問う姿勢はジャーナリズムの古典的機能である権力監視を着実に実践しており、審査員全員が調査報道として高く評価。今年度の「PEP ジャーナリズム大賞」とした。

詳細：<https://peplatform.org/jaward/2022/>

PEP ジャーナリズム大賞受賞！

2022 年 6 月 30 日、一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブが主宰する「PEP ジャーナリズム大賞 2022」において、シリーズ「公害 PFOA」が大賞を受賞しました。

本賞は、「インターネット空間の力強いジャーナリズムが、多様にして包容力と活力のある自由主義と民主主義を育てる上で重要な役割を果たす」という理念のもと、インターネット上で発表された報道を対象に選考しています。課題発見部門、検証部門、オピニオン部門の 3 つが設けられ、各部門から最も優れたものが大賞となります。今回は 65 作品の応募がありました。

シリーズ「公害 PFOA」は、「審査員全員が調査報道として高く評価」。大賞と課題発見部門賞に選ばれました。

シリーズ「公害 PFOA」の第 1 部をまとめた冊子を配布しております。
ご希望の方はこちらからお申込ください。
<https://forms.gle/HAbkphT7o5xQPM4G7>



中川 七海
なかがわ・ななみ／リポーター

1992 年生まれ、大阪出身。好きなものは、旅と本とパンクロックです。働くのは嫌いですが、心が動いたことにはとことんのめり込めます。Tansa での取材や執筆はまさに夢中になれる仕事です。

大学時代は東日本大震災の被害を受けた地域で音楽イベントを立ち上げたり、ヒッチハイクで放浪したりしていました。卒業後は社会起業家のグローバルネットワーク「Ashoka」に就職。

2020 年、ジャーナリズムとデザインを学ぶために米国の大学へ進学予定でしたが、Tansa と出会い、入学を辞退。報道姿勢に共感した Tansa でジャーナリストになる道を選びました。

原発事故下の精神科病院で起きた事件の検証報道「双葉病院 置き去り事件」で「ジャーナリズム X アワード大賞」、ダイキン工業による大阪での化学物質汚染を描いた「公害 PFOA」で「PEP ジャーナリズム大賞」と「メディア・アンビシャス大賞・活字部門優秀賞」を受賞。現在、我が子のいじめ自殺事件の真相追及に立ち上がった両親を助ける、メディア・行政・学校の「仕打ち」を追ったシリーズ「保身の代償」長崎高 2 いじめ自殺と大人たち」を連載中。



ダイキン工業の十河政則社長を突撃取材

知らない間に自分の写真や動画が売買されている。知人からそんな相談を受けたことが、シリーズ「誰が私を拡散したのか」の取材に着手するきっかけでした。初めは何が起きているのか、まったくわかりませんでした。しかし調べていくと、スマートフォンのアプリを使って本人に同意のない性的な画像が大量に取引されていることが明らかになりました。

取引に使われていた2つのアプリは、GoogleやAppleのアプリストアで提供されていたものです。Googleでは、1つのアプリが少なくとも10万回ダウンロードされたことがわかっています。Appleでは、2つともが人気ランキングに入っていました。

アプリには被害者の画像が入ったフォルダを投稿し、「鍵」をかけられる仕組みがありました。フォルダの中身を見たい人は、鍵を購入します。売り上げは投稿者やアプリの運営者に、支払いの際の手数料はGoogleやAppleといったプラットフォームに入ります。

被害者の画像はハッキング、リベンジポルノ、盗撮、SNSからの悪用など、

さまざまな方法で集められています。投稿された画像は保存され、また別の媒体に投稿されます。削除しても追いきれず、被害者の苦しみや恐怖は一生消えません。取材した被害者の1人は、わずか1時間だけ投稿された動画があつという間に広まり、3年経った今もなおネット上に残り続けています。

300人以上の投稿者

アプリの名前をネットで検索すると、次から次へと若い女性の顔写真が表示されます。これらの写真は、アプリに写真や動画を投稿している加害者たちが載せているものです。彼女たちの性的な画像を持っていることを、購入者にアピールするためです。顔写真やプロフィール時には被害者の学校名や本名まで記載して宣伝していました。

中でも頻繁に投稿が行われていたのが、Twitterです。私は連日投稿をモニタリングし、339の投稿アカウントがあることを明らかにしました。1つのアカウントに最大で4万超のフォロワーがあり、その合計はのべ101万

以上に上りました。

投稿者たちは稼ぎ方を指南するチャットグループを作ったり、「オフ会」と称して飲み会を開いたり、犯罪の意識がまるでありませんでした。そこでアカウントの一覧を載せた記事を公開したところ、投稿者たちが反応し、音声チャットを使用した作戦会議が開かれました。

会議では、「Tansaの記事を台無しにしよう」「あの記事がバズって警察が動いたら最悪」などと話す音声を手。速報として報じました。同日、投稿者2名がTansaのTwitterスペースに参加し、お金目当ての投稿であったと認めました。

子どもまで犠牲になっていくの

さらに取材を進めると、幼児から高校生までのあらゆる年代の子どもが被害に遭っていることもわかりました。子どもの頃に受けた性的虐待は、大人になっても被害者を苦しめ続けます。その行為を撮影した写真や動画が出回っている、なおさらです。

ます。次から次へと、新たな投稿者が現れるからです。

警察は個別の事例は逮捕しています。このアプリが犯罪の温床となっていることを認識していません。さらに2022年に警察庁の組織として立ち上がった「サイバー特別捜査隊」も取り組む気がないようです。私が送った質問状に対し、企業や政府組織を狙った「重要犯罪」のみを捜査すると回答してきました。

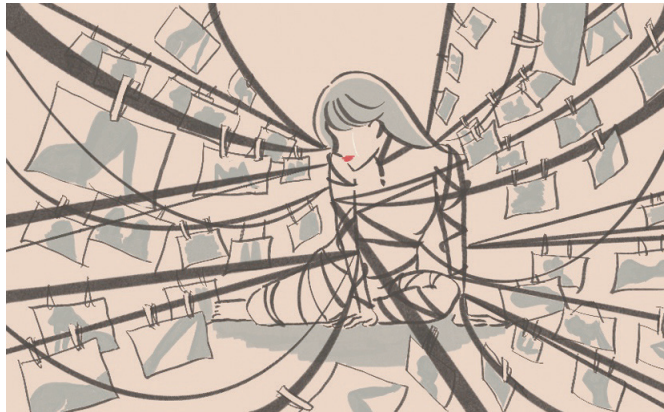
性的画像の撮影や売買も、被害者の人生を壊す深刻な犯罪のほうです。

集まった怒りの声

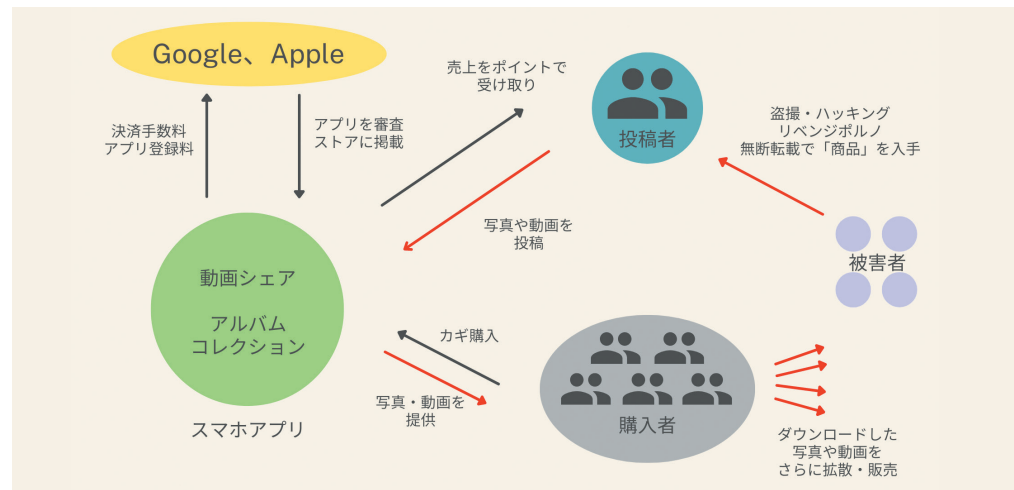
ネット上で起る犯罪をどのように取材し、読者に伝えるべきか。2022年夏に取材に着手して以来、被害者、加害者、プラットフォーム、それぞれの立場に立って、試行錯誤を繰り返してきました。加害者グループに潜入したり、直接メッセージや音声でやりとりしたりと、自らが相手側に分け入って情報を入手することもありました。

しかしSNSやアプリに投稿されている映像を目にし続ける中で、自分の身の回りの人が被害に遭っていたらどうしよう。自分自身がターゲットにされるかもしれない、という不安があったことも事実です。

イラスト qnel



性的画像取引の構図



辻 麻梨子
つじ・まりこ／リポーター

早稲田大学在学中、前身のワセダクロニクルの立ち上げに加わりました。卒業後は広告会社での勤務後、Tansaと東洋経済の仕事を3年間掛け持ちし、2022年6月からTansaの専業リポーターに。

これまでに製薬会社から医師への資金提供を透明化した「製薬マネーデータベース」の作成、被害者救済法施行のその後を追った「強制不妊」の続報、コロナにかこつけた地方創生臨時交付金のばらまきを暴いたシリーズ「虚構の地方創生」などを執筆しました。

「虚構の地方創生」は2022年の参議院予算委員会の質疑に引用され、複数のマスメディアにも取り上げられました。

取材・報道に加えて、SNS等での広報、助成財団との交渉やサポーターを募るファンドレイズなどに、チームのメンバーと連携して取り組んでいます。日本では誰も取り組んでいないことを、一から作り上げていく毎日面白く刺激的です。

この仕事を続けるほど痛感するのは、私たちの力だけでは多くのことはなし得ないことです。サポーターの方々の応援に力をもらい、さらにTansaを進化させていきたいです。

ようこそ Tansaへ

2017～

Tansaの前身のワセダクロニクルが創刊したのは2017年2月です。最初のシリーズは「買われた記事」。電通と共同通信が広告を記事に見せかける「ステルスマーケティング」を20年以上前から行っていたことを暴きました。電通という広告収入を左右する存在に、新聞とテレビは沈黙。ジャーナリズムは崩壊していると思いました。

しかし6年が経った今、違う実感があります。それは日本のジャーナリズムは崩壊したのではなく、元々なかったのではないかということです。あるのは、マスコミが政府や大企業と共に構成している「権力ムラ」だけです。国境なき記者団が発表した日本の「報道の自由度ランキング」は2023年、世界で68位でしたがこの低さは当然です。

昨年末に岸田政権は安保3文書の改定と、原発の新規建設をあとという間に決めました。惨憺たる戦争と、原発事故を伴う東日本大震災が忘れ去られたような政策転換です。

これに対して、マスコミが真剣勝負を挑むことはありません。権力ムラの一員として、恩恵を受けているからです。例えば食品以外で消費税の軽減税率が認められているのは、新聞だけです。

Tansaは一切妥協せずに闘ってきました。医師に多額の副収入を与える製薬会社や公害を起こしたダイキン、原発事故で入院患者を置き去りにした自衛隊やインターネット上の性犯罪を傍観するGoogleなど、どんなに大きな相手でも関係ありません。国葬に関する協議文書を「廃棄した」という責任を問い、岸田文雄首相も徹底的に追及しています。

探査報道って何？

武器は「探査報道」です。従来、メディア業界では「調査報道」と言われてきましたがあえてこの言葉を使い、「Tansa」という組織の名前にまでしています。これにはちよつとしたエピソードがあります。

私がまだ新聞社にいて「調査報道」の担当をしていた時のことです。大阪の実家に帰省した際に母から聞かれました。

「あなたは今なんの担当してんの？ 社会部とか政治部とかそういうの？」

私が「調査報道だよ」と答えると、母がさらに聞いてきます。

「調査して報道するのは当たり前でしょ。調べずに記事を書くことがあんの？」

なるほどと思いました。実際は単なる「調査」ではなく、もつと深くて手間ひまがかかる取材が必要です。Tansaは1チームの取材、記事制作でおよそ1000時間かけています。私たちは自分たちがやっている仕事の実態に合わせ「探査報道」という言葉を使っています。

Tansaの3つのエンジン

Tansaには3つのエンジンがある

ず、あえて寄付モデルで運営しています。サービスを提供する相手としての「お客様」ではなく、共にジャーナリズムを創り上げていく「仲間」がほしいからです。

これは綺麗事ではありません。民主主義のインフラとしてジャーナリズムを創るんだという意思を持った人が集わなければ、日本の強固な「権力ムラ」は変わりません。この6年間の私の実感です。

以下は創刊時に支援していただいたサポーターの方々の声の抜粋です。私は折に触れて読んでは、原点にかえっています。

● 本当のことを知るためのひとつの手段として応援します。できる限りのことを、庶民の視点から調査報道してください。選ばれた少数の人たちのためではなく、サイレント・マジョリティーのために。そして、背筋を伸ばして呼吸ができる未来のために。

● やつと日本にもこういう報道をしようという方たちが出てきたかと、感激しています。リスクの大きい事案ほど長期にわたって隠べいされ、一般国民への被害も大きいと存じます。ご自愛なさりながらも、皆さまどうぞよろしく願っています。

● 応援しています。がんばってください！10歳で敗戦を迎えた世代として、戦

ると私は思っています。

1つは「若さ」です。

探査報道には技術と経験が必要です。ベテランでチームを構成した方が効率的かもしれませんが、Tansaはあえて若手メンバーの育成に力を入れています。先にも書いた通り、ジャーナリズムが元々なかった日本でジャーナリズムを創っていくためには、これまでにない心構えと発想が必要だからです。実際にTansaの若手はメキメキと力をつけています。

次に「国際コラボ」です。

Tansaは日本の報道機関として唯一、世界探査ジャーナリズムネットワーク



都営団地を歩き、新聞押し売りの実態を探る



渡辺 周
わたなべ・まこと／編集長

大学卒業後、日本テレビに報道志望で入りましたが営業局に。2000年から朝日新聞に転職し、記者として16年間過ごしました。原発事故後の連載「プロメテウスの罠」で、原発立地町・福島県大熊町の苦悩を描いた『原発城下町』などを書いたり、心と身体の性が一致しない人たちの物語「男と女の間には」を連載したりとそれなりに充実した日々でした。

しかし40歳を過ぎた頃、「もつと自由に、もつと激しく」という思いがムクムクと湧き上がり退社。Tansaの前身であるワセダクロニクルを立ち上げました。「100からの引き算」より「0からの足し算」の方が面白いということを実感しています。

今は、「消えた核科学者」など自身の取材テーマを追うだけではなく、若手メンバーの育成にエネルギーを注いでいます。Tansaの若手たちが活躍し「自分もジャーナリストになりたい」と思ってくれる子どもたちが増えたらこんなに嬉しいことはありません。趣味は筋トレです。



Ashoka Koreaのメンバーたちとソウルで

チーム Tansa でジャーナリズムを創る

調査報道とNPO運営の両輪

Tansaの運営は、リポーターやボランティアスタッフ、学生インターンによって支えられています。

週に1度行なっている、全員が参加し運営面について話すミーティングでは、予算や事業の計画、営業戦略、マーケティング、サイトのSEO対策、オンラインイベントの企画運営などについてアイデアを出し合っています。

申請できる助成金を探したり、その申込みもチームで手分けをして行なってきました。Tansaのような非営利独立の小さなニュースルームやジャーナリズム、ジャーナリストを支援する助成団体は日本には少なく、海外の財団にも目を通して申請する必要があります。その場合、申請書は英文で記入し、財団とのやりとりも英語で担います。

運営面で培っているチーム力は、報道の場面でも活かしていると感じます。

単発でスピード感が重視される記事を出すときは、担当リポーターだけでなく他のメンバーやボランティアスタッフも総出で動きます。記事を書くこと以外にも、記事中のサムネイルや写真を準備したり、読者がより記事を理解しやすいよう表をデザインしたり、情報が正しいかどうかデータを見直す必要があるためです。

2023年も、チームTansaで運営と調査報道の両輪を回していきます。

自分で自分取材する

2022年8月より、「飛び込め！ファーストペンギンズ」という名前でコラムを始めました。

勇気を持って挑戦する人を、ペンギンの群れの中から最初に大海に飛び込むペンギンに例えて、ファーストペンギンと呼びます。

コラムを始めたのは、調査報道の記事では伝えきれない取材の裏話を読者へ届けたり、リポーターが日々感じたことや葛藤したことを綴ったりと、等身大の私たちを読者の方々を知ってもらうためです。

ネタ決めから執筆までは大変ですが、最近はその過程が楽しくなってきました。身の回りで起きた出来事がネタにならないか、常にアンテナを張っています。

コラムを書くときは、自分で自分取材します。自分が経験したことや感じたことに対して、なぜそう感じたのか自問自答です。より面白いコラムをお届けできるよう、リポーター同士でネタの相談をし合うこともあります。

コラムを出した後、読者の方から届く感想や応援メッセージは、私たちにとって何よりの励みです。

知名度もまだ低く、財政的にも不安定なTansaに飛び込んだファーストペンギンズたちの奮闘ぶりにご期待ください。

インターン&ボランティア募集

Tansaでは、調査報道の手法を学び、共に組織を作り上げる意欲のある学生インターンの受け入れを行っています。インターン活動中は調査報道のスキルやマインドセットの全てをお伝えします。実践の場に行ったり、編集会議にも参加したりできます。将来的には、インターン生自身が一つの調査報道作品を作ることが目標です。調査報道を担う次世代が育つよう、Tansaメンバーがサポートしていきます。「一流の調査報道ジャーナリストになりたい」と考える方の挑戦をお待ちしております。

またTansaでは、活動を応援していただく方法の一つとして、あらゆる分野の単発のボランティアを募集しています。内容は、書類発送やイベント時のお手伝い、動画編集、翻訳などさまざまです。実際にボランティアをお願いする際には、事前にご登録いただいている方に個別連絡し、面談を行なった上でご参加いただきます。皆さまからのご登録をお待ちしております。



インターン応募



ボランティア登録

Tansa ラジオ



記事の解説や取材の裏話をポッドキャストとYouTubeでお届けしています。これまでの調査報道シリーズ「ミャンマー見殺し」を初め、「虚構の地方創生」「公害 PFOA」などを収録。Tansaの記事を耳でお楽しみいただけます。



@tansatokyoinvestigativenew673

メルマガ登録



最新記事のリリース情報やイベントのご案内、取材の裏話やコラムを配信中です。メルマガ限定の情報もあります。どなたでも、無料でお読みいただけます。



<http://eepurl.com/hslUsf>

飛び込め！ファーストペンギンズ

不定期



編集長コラム

毎週土曜日



どちらもメルマガにて配信中です。過去のコラムは、QRコードよりお読みいただけます。

Tansa は 2017 年の創刊以来、主にサポーターの皆さまからの寄付や助成金で活動を続けてきました。寄付とともに寄せられる応援メッセージや、SNS 上での記事のシェアは、私たちの励みになっています。一人ひとりに直接お礼はできなくても、私たちは「Tansa コミュニティ」の一員となつてくださる皆さまの思いを背負つて、いつも取材や運営に臨んでいます。本当に、ありがとうございます。

Tansa は現在、およそ 380 人のマンスリーサポーターにご支援いただいています。年間で約 1000 万円の支援となり、探査報道に必要な取材費やリポーターの生活を支える人件費などに使用しています。

しかし、時間とお金がかかる探査ジャーナリズムを長期的に応援して下さる人数としては、まだまだ足りないのが現状です。運営面を担うスタッフを雇えないため、リポーターが自ら営業や経理業務などを担ったり、取材時間を削つて助成金を探したりしています。

Tansa が、良質な探査報道を読者に毎日届けられるニュースルームになるには、リポーター 30 人と、運営スタッフ 20 人からなる、計 50 人の報道機関に成長しなければなりません。この規模になるには、1 万人のマンスリーサポーターが必要です。

6 周年を迎えるにあたり Tansa は、サポーター 1 万人を 10 年以内に達成する目標を立てました。

目標に向けて、「Tansa コミュニティ」の一員になつていただけないでしょうか？ Tansa が理不尽な状況に置かれた犠牲者を救い、未来の被害を防ぐために権力を監視する報道機関になるためには、皆さまの力が必要です。

10 年後、「日本には Tansa があるから大丈夫だ」と心強く感じてもらえる存在になるために、どうかご支援をよろしくお願いいたします。

しかし、時間とお金がかかる探査ジャーナリズムを長期的に応援して下さる人数としては、まだまだ足りないのが現状です。運営面を担うスタッフを雇えないため、リポーターが自ら営業や経理業務などを担ったり、取材時間を削つて助成金を探したりしています。

Tansa が、良質な探査報道を読者に毎日届けられるニュースルームになるには、リポーター 30 人と、運営スタッフ 20 人からなる、計 50 人の報道機関に成長しなければなりません。この規模になるには、1 万人のマンスリーサポーター

サポーターを募集中です。
サポートの種類や寄付方法は裏表紙をご覧ください

全国各地のマンスリーサポーター

海外 ブラジル 1 アメリカ 3	中国地方 岡山県 2 広島県 1 山口県 4	中部地方 新潟県 4 長野県 7 静岡県 7 愛知県 9 岐阜県 2 富山県 1 石川県 1	近畿地方 滋賀県 2 京都府 7 奈良県 1 和歌山県 1 大阪府 20 兵庫県 14	東北地方 北海道 15 岩手県 2 宮城県 3 福島県 2	関東地方 茨城県 6 栃木県 4 群馬県 4 千葉県 19 埼玉県 20 東京都 140 神奈川県 46
九州地方 福岡県 6 佐賀県 1 大分県 1 宮崎県 1 熊本県 3 鹿児島県 2 沖縄県 6	四国地方 香川県 2 徳島県 1 高知県 2 愛媛県 5				



豊里文子さん
60代 / 会社員

権力と癒着せず報道を

Tansa の記事で初めて読んだシリーズは、「双葉病院置き去り事件」です。Twitter でたまたま記事を見つけたのがきっかけで、読み始めると次の展開が気になって、どんどん読み進めたことを覚えています。Tansa の魅力は、社会問題を報じて終わるのではなく、読者が「これはよくない」と声をあげたくなるような報道をしているところです。

シリーズ「誰が私を拡散したのか」にも注目しています。女性や幼い子どもたちが犠牲となっていることを、野放しにしておいてはいけないと思ったからです。

応援の気持ちから、寄付をしたり Twitter でリツイートしたりして記事を広めています。Tansa に期待することは、権力と癒着せず、権力が隠そうとすることを追及し、誰もが生きやすい世の中に変えていくような報道をしていただくことです。応援しています！



寺田和弘さん
50代 / ドキュメンタリー映画監督

唯一無二の仕事

Tansa を知ったのは、今から 3 年ほど前です。私は長年、足利再審事件をきっかけに、最新の DNA 鑑定による冤罪事件取材していました。そういう背景もあってか、シリーズ「監視社会ニッポン」が目にとまりました。警察による DNA 採取を冤罪の側面から報じたものはあっても、警察が国民の 100 人に 1 人の DNA をデータベース化している危険性に切り込んでいるのは Tansa だけでした。鋭い報道に引き込まれ、マンスリーサポーターになりました。

Tansa のすごいところは、古典的な「調査報道」を実践しているところです。Tansa の報道を「調査報道」と言つと怒られちゃうかもしれませんが……。本当の意味での「調査報道」を実践しているメディアや記者は、今の日本にほとんどいません。売り文句として使っている、実態が伴っていないメディアが増えていきます。しかし Tansa は記者一人一人が、そして報道機関として、それを体現している。一つの真実のために、あらゆる取材をしなくてはならないことは私も知っています。だからこそ、Tansa の仕事は唯一無二だと思います。

正直、Tansa に出会った頃は編集長だけが目立っている印象でした。しかし今は違います。取材テーマの選び方や記事の書き方から、若手リポーターそれぞれのキャラが見えてきます。「探査報道」という軸以外は多様な Tansa は、もつと面白くなつていくのでしょつ。



今井直人さん
20代 / 尼崎市立ユース交流センター職員

未来のために闘うヒーロー

私は日々、中高生とかかわる仕事をしています。先日、中高生たちがあるネットニュースを見ながら盛り上がりつついました。ところが、そのニュースは Twitter の偽アカウントが流したフェイクニュースだったのです。彼・彼女らは、幼少期から YouTube を観たり、小学生から自分のスマホを持つたりして育つたデジタルネイティブです。デジタルツールを物理的に使いこなすことには長けていますが、自分の力で真実を見抜き、物事を批判的に見るノウハウはもつと必要だと気づきました。

そこで、探査報道のスキルとマインドセットを学べる「ユース合宿」の受講を決めました。実は、受講生兼スタッフとして参加しています。まずは自分自身が受講生として探査報道を理解するために。その上で、普段の仕事のスキルを活かし、探査報道のノウハウを中高生に伝える時の「つなぎ目」として役に立ちたいと思ったからです。

Tansa は、私の目には「記事という武器で巨悪と闘うヒーロー」に映ります。未来のために、今の不正義と闘う存在です。この人たちが応援しない社会にしてよいのでしょうか。Tansa を「イイネ！」と感じる若者が増えることで、社会にとってより大きな力になると思います。私なりの方法で、これからも Tansa を応援していきます！



小野ヒデコさん
30代 / フリーランス記者

社会の監視役

Tansaを絶やしてはいけない、という思いで寄付を始めた。きっかけはTansa Schoolを受講したことです。自身が学びながら、Tansaのメンバーのことも知りました。

私は出版業界にいたこともあります。その時の経験と比較しても、ここまで徹底した報道をしている組織は他にないと思います。シリーズ「誰が私を拡散したのか」など、目を瞑ってしまいたいようなことに立ち向かって、報じてくれることがありがたいと感じます。私にはできないことを、代わりにやってもらうという気持ちで応援しています。

幼い頃から母によく聞かされていた言葉に「天知る地知る我知る人知る」というものがあります。悪事をはたらいたら、いつか必ず露呈するという意味ですが、人知れず行なわれている悪を暴くのはTansaだと思います。日本では失われたつつあるジャーナリズムの基本である、社会の監視役、ストッパーとしての役割を期待しています。



小坂高洋さん
50代 / 会社員

探査報道のマインドセットを子どもたちへ

製薬マネージャータベースの記事を読んだことが、Tansaを知ったきっかけです。膨大な量の情報がデータベース化されていることに驚きました。Tansaの根気強さを知って興味を持ち、その後も記事を読むようになりました。

Tansaの記事を読んでいると、社会問題がなぜ起きているのか構造がわかります。しかし、日々目にするニュースではそれがわかりにくい。既存のメディアは、社会で起きている問題のほんの一部しか報じていないと気づきました。その気づきから、私には小中学生の子どもたちがいるのですが、日々のニュースを批判的に見ることや、報じられていることだけが全てではないこと、報道内容をさらに自分で調べることが大事だと伝えていきます。

日頃は、Amazonの物品寄付や、各シリーズに特化した寄付、Tansa自体にも寄付をしています。これからも応援しています！



清水モモさん(仮名)
70代 / 元会社員

勇気ある女性たちを応援したい

寄付している額の、数十倍は強い気持ちで応援しています。シリーズ「公害PFOA」で取り上げられている大阪府摂津市は、うちからも近いんです。ダイキンという大きな会社が引き起こしている公害でありながら、どうしてニュースになっていないのか。とても不思議です。

リポーターの方々はお若いのに、勇気と知性、正義感がありますね。ペンギンコラムをいつも楽しみに読んでいます。皆さんの勇気が、文章に表れている。それぞれに個性も出ているので、それを活かして活動してほしいです。

私も長い間会社で働いてきて、女性だということを理由に理不尽な扱いを受け続けてきました。あごで使われたり、男性社員の灰皿を洗わされたりね。まだまだ不平等なことはあるけれど、少しずつ世の中の景色も変わってきたと思います。

だから女性のことは余計に応援したい。私たちの分まで、挽回してほしいです。



佐野 誠
スタッフ

小さなメディアの大きな力

Tansaに加わって3年が経ちました。

取材以外の事務に携わっていますが、サポーターを増やすことはつの大きなミッションです。もちろん、それはメンバー全員で取り組んでいることではありますが、私は前職で通販の営業として何十万の名簿、億の金額を扱っていたので、リポーターたちの給料もマンスリーサポーターだけでは賄えない現状にどうしても己の力不足を感じざるを得ません。

商業的な販売と違い、Tansaでは新聞やテレビなど大手メディアに広告を出すことは資金面で難しいです。商業的なメディアは大手企業を追及するTansaを受け入れないため、記事を共有してもらう手法も使えません。

それでもサポーターは着実に増えています。SNSやメルマガなど小さなメディアでも、メンバーの体温が感じられる発信が、繰り返し寄付をしてくれる熱心なサポーターを生んでいます。リポーターたちと直接会うことで、支援を決めてくださる方もいます。私はTansaで一人一人が「小さなメディア」となることの力の大きさを実感しています。

これをお読みのあなたも、「自身が「小さなメディア」となって周囲の方々にTansaを広めるお手伝いをしていただけたら、こんなに嬉しいことはありません。



荒井 喜八郎
理事 / 荒井財団・理事長

真摯に信用を取り戻す

私はビジネスの世界で昭和と平成を駆け抜けてきました。昭和は日本経済がぐんぐん成長して「経済大国」にのし上がっていった時代でしたが、平成は「失われた30年」ですっかり元気がなくなっていました。

ただし、どんな時代になろうとも絶対に大切なものがあります。信用です。信用というのは、真摯な人に宿るものです。私はとにかくこの信用を大事にして生きてきました。

ところが今の日本はどうでしょう。政治家が自己の利益のために平気で嘘をつく。その嘘を、マスコミの記者たちは怒ることなく唯々諾々と受け入れて報道する。国民もこの状況に慣れてしまつて、怒ることを忘れているように見えます。いつからこんな時代になったのでしょうか。

私は怒っています。だからこそ、ジャーナリズムという畑違いの分野であってもTansaの理事となりましょう。未来の世に、信用に満ちた社会を引き継ぐため私も一肌脱ぎたい。そう思っています。

私の性分に合っているというのも、Tansaの一員となった理由です。私は、周囲からどう思われるかを気にするのが大嫌いです。自分なりに考え抜いたことを実行します。こんな性分の人たちを引き寄せられ続ければ、Tansaはきっと社会を変える仕事をします。



喜田村 洋一
顧問弁護士 / 公益社団法人
自由人権協会・代表理事

丁寧な取材があるからこそ

2017年2月の創刊以来、顧問弁護士を務めています。46年の弁護士生活では、自由な報道を実現するための仕事に力を入れてきました。

私が当初からTansaのメンバーのみなさんに申し上げてきたのは、「どうやったら記事として報道できるかを一緒に考えよう」ということです。メディアの中には、訴訟となることを恐れて、あれもダメ、これもダメと自主規制するところがあります。「報道するためにはこうすればよい」というアドバイスをしないで、訴訟リスクのことだけ伝える弁護士もいます。しかし、報道の自由は憲法で保証されている、民主社会を実現するための重要な権利です。委縮してはならないのです。

もちろん、何を報じてもいいというわけではありません。事実を突き詰める取材が前提です。その点、Tansaはこの6年間、非常に丁寧な取材をしています。私が顧問弁護士としてTansaを支えているのはこの姿勢があるからです。Tansaは、首相でも大企業でも立ち向かっていきますが、その結果、訴訟となれば、私はいつでも受けて立ちます。戦闘的なところは、Tansaに似ているかもしれません。

昨年は中川七海さんの「公害PFOA」や、辻麻梨子さんの「誰が私を拡散したのか」など若い記者たちの活躍が素晴らしいですね。これからもこの勢いを継続させ、さらに伸ばしていくことを願っています。



花田 達朗
アドバイザー / フリーランス
社会学者、早稲田大学名
誉教授、東京大学名誉教授

Tansuとは何者か？

Tansuの前身のワセダクロニクルが発足した時から、私はこの組織に関わっている。最初はプロジェクト誕生の地であった早稲田大学ジャーナリズム研究所の所長として、またこの報道組織が2018年に非営利法人として大学から独立した後にはアドバイザーとして、かつマンリースポーターの一人として。

一言で言えば、Tansuとは「権力探査」によって世直しジャーナリズムを実践するプロフェッショナル・ジャーナリストの組織だ。「権力監視」(watchdog)はマスメディアが栄えた20世紀に特に米国でよく使われた言葉ではあるが、現実には特に日本ではなかなか実効性が伴わず、お題目に終始してきた。重要なのは、そこにある(と思われる)権力を監視することではなく、まだ突き止められていない権力の正体とその活動を「探査」(investigation)するところから始めることなのである。だからTansuは宇宙のように広大な権力空間に向かって発射された探査機なのだ。

21世紀の日本でジャーナリズムを再建することができるとか、それはひとえにTansu、そして来るべき後続組織の力にかかっていると、私は考えている。この世界をより公正なものに進化させ、権力の犠牲者が生まれないような世界にするためには、さまざまな権力を闇の中から白日のもとに引っ張り出して、ガラス張りにしなければならない。

私はTansuに期待してきたし、期待している。そして、より多くの人々がTansuを経済的に精神的に支援してくださることを願っている。この挑戦はきつとくまう行く。



松井 香
監事 / JAPAN 革新継承株
式会社・代表取締役

擁壁に風穴を開けるメディア

Tansuから、アドバイザーになってほしいとの依頼を受けたのは2年ほど前のことです。私はベンチャーから上場企業まで、これまでに10〜20社を経営してきました。その経験を活かし、Tansuの経営や組織面をサポートしてほしいとのことでした。正直、いくつもの会社経営で手一杯の毎日です。しかしTansuの活動を知り、この報道機関を社会からなくしてはいけないと思うようになりました。

私は大学卒業後、社会的意義のある報道がしたくてテレビ局に入社しました。ところが当時のポジションでは、自分の思いに沿う仕事はできません。数年でテレビ局を辞め、ビジネスの世界に入ったのです。

Tansuとの出会いで私は、心に秘めていたジャーナリズムへの思いが呼び起こされました。同時に、Tansuへの協力は私の使命だと感じました。

国際連

ポーランド、タイで国際ネットワークに参加 韓国でのシリーズ取材も

コロナ禍の影響が少しずつ緩和されてきた2022年は、海外での研修やネットワークを再開することができました。

6月には、リポーターの中川がポーランド・ワルシャワを訪れました。Tansuが支援を受けるオープン・ソサエティファンデーション主催の探査報道ジャーナリストの研修会に参加するためです。

参加者は世界各国の、小さなニューズルームから集まった30名。Tansuのリポーターたちと同様に、取材も組織運営も担うジャーナリストがほとんどでした。5日間に渡り、持続可能な運営のためのアイデアを出し合ったり、ジャーナリズムを取り巻く各国の状況を共有したりしました。

11月にはアジアを中心とした、スタートアップメディアのネットワーク「Splice」の会議がタイのチェンマイで開かれました。Tansuからはリポーター3名が参加。参加者約100人を前に、税金の使い道がわかるデータベース「JUDGE IT!」の活用方法を紹介しました。



会議ではSNSやポッドキャストを使った報道の発信や、助成金を得るための提案書の書き方など、組織運営に役立つ具体的な知識を学びました。また各国のジャーナリストとの新たな繋がりもできました。共同プロジェクトも計画中です。

2023年2月には、シリーズ「誰が私を拡散したのか」の取材のため、韓国・ソウルを訪れました。韓国では2020年に大規模なデジタル性犯罪、「N番部屋事件」が発覚しています。被害を防止するための法整備や、加害者への厳罰化が行われましたが、実は犯罪はなくなっていません。詳細はシリーズの続報で報告します。



これまでの国際コラボレーション

2021年	10月	国際金融詐欺事件「CumEx ファイル」に関する報道 Corrective(ドイツ) / LeMond(フランス) / BBC(英国) / ABC(米国) ほか
	9月	シリーズ「日本が食った『奴隷』のマグロ」 Mongabay(米国) シリーズ「石炭火力は止まらない」 ニュースタバ(韓国) / Tempo(インドネシア) / オーストラリア財務レビュー(オーストラリア) / メディア・発展センターベトナム(ベトナム) / Malaysiakini(マレーシア) / Tortoise Media(英国)
2020年	5月	シリーズ「巨大たばこ産業の企み」 OCCRP(グローバル) / Report・Rai 3(イタリア) / Kyiv Post(ウクライナ) / Rise Romania(ルーマニア) ほか
	6月	シリーズ「東京物語 Tokyo Stories」 The Guardian(英国)

閉塞感や虚無感が充満した現在の社会では、たとえ違和感や疑問を抱いても、自分では変えられない大きな力を感じてしまします。そんな社会でTansuは、他メディアが報じないことを深く取材し、ストーリーに乗せて突破口を示しています。記事が多く読者に届いた時、「おかしいものは、おかしいよね」「私も声をあげていいのかも」といった気持ちの変化が生まれるのではないのでしょうか。擁壁のような巨大な力にTansuが風穴を開け、風にあたる人が増えて、その人たちが少しでも行動できたらいいなと思います。

昨年末には、アドバイザーの枠を超えてTansuの役員となりました。メディアの力を信じたいからこそ、私はTansuが長く継続するための仕組みづくりに力を注いでいます。

国際アドバイザーボード

- 花田達朗……フリーランス社会学者、早稲田大学名誉教授、東京大学名誉教授
- 林怡媛……立教大学社会学部教授
- 松井香……JAPAN 革新継承株式会社 代表取締役
- 矢部寛明……認定NPO法人底上げ 理事長、東北芸術工科大学 教員
- 近藤 Nick 直樹……一般財団法人 JAPAN 革新継承基金 代表理事
- スティーブン・バトラー……ジャーナリスト保護委員会(CPJ) シニアプログラムコンサルタント
- ゲルト・コッパ……ドルトムント TU 大学名誉教授
- ロバート・J・ローゼンタール……探査報道センター Reveal 元事務局長

社会人向け

ベーシックコース

「市民をジャーナリストに」「ジャーナリストを一流のジャーナリストに」という2つの軸で授業を展開しています。Tansa Schoolの中で、最も基礎的な内容を学ぶことができます。

カリキュラムの例：

情報公開請求の手法、取材の端緒の見つけ方、校閲力をつける



アドバンスドコース

調査報道をライフワークにするため、高度な取材・調査技術や調査報道に特化したスキルを身につけたい方が対象です。具体的なノウハウをケーススタディに沿って伝授します。

カリキュラムの例：

核心に迫るインタビュー手法、突撃取材のコツ、訴えられない記事の書き方



若者向け

Youth x Tansa

今、「調査報道について教えて欲しい」とTansaの門を叩く10代・20代が増えています。ジャーナリストを目指すか否かにかかわらず、社会に対して問題意識を明確に持ち、社会を今より良くしたいと志す若者にとって、調査報道が一つの手段となるからです。編集長やリポーターが伴走しながら、若い世代に調査報道のノウハウを伝える「ユース合宿」などのプログラムを提供しています。

これまでの受講生の取材テーマ：

「成人した若者が受ける虐待」（熊西叶乃・上智大学2年生）、「学校全体主義の地獄」（成毛侑瑠樺・観啓大学2年生）ほか



出前授業

各団体の要望にカスタマイズした出張授業やワークショップを実施しています。単発の講座だけでなく、オンラインやオフラインを併用した連続講座も用意しています。例えば、広島県のフリースクール「木のねっこ」では、中学生を対象とした連続講座「スクープを放つ！」を実施しました。参加者一人ひとりが気になる社会問題取材し、約1年間かけて記事を完成させました。

これまでの開催実績：

フリースクール「木のねっこ」、茨城大学、上智大学、立教大学、専修大学、青山学院大学青山ビジネススクール、Ashoka Japan、学堂会、新聞労連、神奈川県議会ほか



誰が記者教育を担うのか

Tansa Schoolの取り組み

日本のジャーナリズムは今、瀕死の状態です。権力を監視するというジャーナリズム本来の役割を、100年以上続いてきたマスメディアは果たせていません。監視どころか権力システムの一員として忖度が常態化しています。

経営難と相まって、現場の記者、記者を目指す学生たちは「自分たちの5年後、10年後はどうなっているのだろう」と不安でいっぱいです。プラットフォームは隆盛ですが、マスメディアからニュースを買っており、取材して発信するというプロの記者を擁しているわけではありません。

市民の側もまた「忖度とフェイクニュースが横行する日本社会は大丈夫か」と心配しています。

このままでは、日本の情報空間が砂漠化する日はすぐそこです。

Tansaは2020年11月、「ジャーナリストの更なるプロフェッショナル化」と「市民のジャーナリスト化」を目指して調査報道ジャーナリスト養成学校「Tansa School」を開校しました。記者には、「プロにしかできない仕事で生き残る」ために必要な技術を、市民にはこれまで「メディアに頼っていた」情報入手と発信を自らできるようになる技術を伝授します。

これまで記者教育といえば、現場で先輩に教わりながら自ら育つというスタイルが主でした。

しかしそれでは環境に左右されます。今は教えてくれる先輩も激減しています。Tansa Schoolは、ジャーナリストに必要なマインドと技術を言語化した上で、体系化しているのが特徴です。

ベースとなるのは、調査報道の技術です。Tansaは2017年の創刊以来、数々のスクープを放ち、法改正や大企業の業務見直し、国会での審議へとつなげてきました。事態を動かす取材ノウハウを余すところなく伝授します。

Tansaはこれまで調査報道機関である韓国のニュースタバやドイツのコレクティブ、イギリスの有力紙ガーディアンなど数々の外国メディアとコラボレーションしてきました。外国のジャーナリストたちとの協働で世界最前線の技術も常に取り入れていきます。

日本の学校では、先生の言うことをそのまま受け入れて、自分の頭で考えることが疎かになりがちです。Tansa Schoolではより若い時から、「疑い、調べ、表現する」という習慣を身につけてもらうため、中学生から大学生を対象にしたカリキュラムも実施しています。

子どもに胸を張って手渡せる社会をつくりたいです。そして子どもには、自分なりの目をもって未来をつくる力を贈りたいです。調査報道に加えて、Tansa Schoolにも力を入れるTansaで、この二つの目標に取り組みると感じ、メンバーに加わりました。

大学時代の東日本大震災ボランティアをきっかけに、Empathy（エンパシー）という言葉に出会いました。エンパシーとは、他者の感情を「その人の靴を履くように感じる能力です。繰り返されるいじめや学級崩壊に憤りもあり、エンパシーは復興支援だけでなく社会課題を解決する鍵の一つだと感じました。

エンパシーを育むプログラム「Root of Empathy」の創始者メアリー・ゴードンに会い、米留学中にはプログラム実施校を訪問しました。人種やジェンダーなど多様な価値観を相互に受容しながら社会をつくっていくことを、身を持って知ることができました。私の生き方に大きな影響を与えています。

これまで、教育系NPOや学校、地域など様々な立場から日本でエンパシーを育む探求をしてきました。市民のための報道であるTansaで、皆さんとともに社会のあり方を考え、行動します。



高橋 愛満

【新スタッフ】

たかはし・まなみ／教育事業担当

探査報道シリーズ



岸田文雄首相が目指す防衛費増額の財源として、東日本大震災の復興費を「転用」する案が出た。復興費用の財源は所得税の増税で捻出してきたが、更なる増税で防衛費を賄う算段だ。納税者を騙し討ちするような行為を、岸田政権はなぜ平然と実行しようとするのか。政府の騙し討ちはこれが初めてではない。実は、2011年度から2015年度にかけて復興予算は防衛費に使われていた。政府与党の復興費流用は、防衛費増額方針に合わせて新たに出来た案ではなく、すでに実行したことを再びやろうとしているのだ。執行額は1270億円超。重機関銃を備えた装甲車、有事に作戦部隊を送るための輸送機、自衛隊施設の改修など東北の復興とは関係ないものだ。

防衛費解剖

記事の視点が変わった

受講当時は入社3年目。入社以降、探査報道をしたとは思ってはいなかったものの、日々の紙面を埋め、発表ものを他社より早く書くことに忙殺されていた。何より、探査報道のやり方が分からない。私が働いていた環境では記者教育が体系化されておらず、「分からないことがあったら」その都度先輩に聞く場合がほとんどで、「何から手をつけていいか分からない」時に頼れる人はいませんでした。

約半年間の受講後、スキル編で学んだことを生かし、自治体が組む予算事業を抜くのではなく「何にお金を使うのか」に目を向けてみました。

ある予算で、体育館のバスケットゴールが落下して生徒がけがした事故をきっかけに、自治体が約17億円をかけて全体育館の8割のゴールを修理・交換する費用を組みました。予算全体の半分を占めるあまりの金額に違和感を抱き調べてみると、事故が起きたゴールと8割のゴールは業者が定める点検を何十年もやっていなかったことが分かりました。さらに近隣の複数の自治体でも同様に業者点検をしていませんでした。予算書の数字を深く調べたこと、同じ事故を二度と起こさせないという気持ちがあったこと。講座での学びが生かされた最初の経験になりました。



匿名
新聞記者



安倍晋三元首相の国葬を、閣議決定で行うことは法にのっとっているのか。岸田文雄首相は、「法の番人」である内閣法制局との協議の結果であることを強調した。ところが、Tansaが内閣法制局に情報公開請求をかけたところ、公開されたのは「応接録」と呼ばれる文書1枚のみ。首相側から国葬を閣議決定で行うことについて相談を受け、「意見なし」と回答した旨だけが記されていた。官邸側は、「記録を作成していない」か「廃棄した」という理由で、文書そのものがないと主張している。仮に文書を廃棄したならば、公文書管理法違反である。記録を残し検証するという民主主義の根幹が揺らいでいる。Tansaは岸田首相に対して、行政不服審査法に基づいて審査請求を行なった。

国葬文書隠蔽

ノウハウの言語化でモヤモヤ解消

新聞社で6年間記者をして退社後、今は東京のネットメディアで記者をしています。

新聞記者の時は、先輩のやり方を見れば真似て学ぶことが多く、うまくいく時もいかない時もあり「この差はなんだろう」と感じていました。転職したネットメディアでは、自由に取材テーマを選べます。しかし調査報道をしたいという思いがあっても、調査報道のノウハウを会社内で修得する機会是不十分です。1人では無理かなと思っていました。

そんな時に、Tansa Schoolを知りました。

ノウハウが言語化されていて、新聞社時代に感じた「モヤモヤ感」が解消されました。自己流でしていた情報公開は一から教えてもらえ、早速自分の取材で使いました。まだ知られていない問題を報じて社会を変えたい、でも方法がわからない仲間もいると悩んでいる人には、ぜひTansa Schoolを受講してほしいですね。



國崎万智さん
ネットメディア記者



虚構の地方創生

コロナ禍で全国に渡った地方創生臨時交付金が、無駄遣いの温床になっていた。全体の予算額は17兆円超。Tansaはそのうちの約6万5000事業をデータベース化し、検証した。判明した使い道は、着ぐるみづくりや現金ばらまき、婚活支援や五輪聖火リレーなど、「なんでもあり」の様相だ。さらに取材を進めると、2014年から当時の安倍政権下で進められた「地方創生」が政権維持に利用され、都会の大企業がその利権に群がり、地方は活性化の処方箋を持たないまま税金が浪費される構図が浮かび上がった。巨額をつぎ込んで、東京一極集中は進むばかりだ。2014年以来的「地方創生」は政権維持と大企業のための虚構だった。この責任は、一体誰がとるのか。

記事を犠牲者の反論の手立てに

ユース合宿に参加した理由は大きく2つあります。一つは、あらゆるメディアから情報が溢れる毎日で、何が正しい情報なのかを見極められるようになりたかったからです。もう一つは、ずっと関心のあった教育の問題を深く調べるためです。

学校では、教師による「全員こうあるべきだ」という押し付けや、暴言・体罰が横行することで、子どもたちが自分を否定してしまう状況が多発しています。しかしそれは、教師個人の問題ではなくて学校の構造が生み出している問題です。その構造を明らかにするため、取材しています。

合宿で印象に残っているのは、「記事が犠牲になっている人たちの反論の手立てになる」という話です。実は参加した当初、自分が記事を書くことで誰にどのような影響を与えたいかは漠然としていました。だけどこの話を聞いて、私の記事を読んだ子どもたちが「これって当たり前じゃないんだ」「怒っていいんだ」と普通の学校生活で感じられるようになってほしいと思うようになりました。



成毛侑瑠樺さん
観啓大学2年生

高齢者狙う新聞販売

認知症のお年寄りに新聞を売りつける。業務停止処分を受けたかんぽ生命の不正販売と同じことが、新聞販売の現場でも起こっていた。年間 200 万部減という新聞経営の苦境で、一線を越えた。「社会の木鐸」は崩壊した。

買われた記事

電通と共同通信が 20 年前から読者を欺いていた。スポンサーのカネが伴う「宣伝」を、「記事」として配信していた。暴かれたタブーに、共同の配信を受けてきた地方紙が沈黙する中、電通が株主総会で表明した方針とは？

双葉病院 置き去り事件

2011 年 3 月 11 日、原発から 5 キロの病院に多くの寝たきり患者が取り残された。救出が完了したのは 16 日。45 人が命を落とした。非常事態の中で何があったのか。検察の調書から、自衛隊の致命的なミスをはじめ数々の新事実が明らかになる。

強制不妊

敗戦後、「日本民族の復興」を掲げた政治家が、不妊手術の強制を合法化した。狙いは障害者の排除。医師、裁判官、NHK 幹部ら「エリート」が 1 万 6500 人超への手術を推進した。「ナチス化」を危惧する声もかき消される。

消えた核科学者

動燃のプルトニウム製造係長、竹村達也氏が 1972 年に失踪した。その直後、刑事は動燃にきて「北に持って行かれたな」という。竹村の技術は北朝鮮の核兵器開発に利用されたのではないか。日本人拉致の真の目的とは何か。

製薬マネーと医師

製薬会社の「お客様」は患者ではない。薬を処方する医師だ。年間 1000 万円超が、学会の推奨薬を決めたり薬の値段を決めたりする医師に「ポケットマネー」として渡る。「政治とカネ」を凌ぐ癒着の構造が、そこにあった。



- 日本が食った「奴隷」のマグロ
- 石炭火力は止まらない
- 迷走の東京五輪
- ミャンマー見殺し

- 巨大たばこ産業の企み
- 隠された乳がんマネー
- 税金を "JUDGIT!"
- 監視社会ニッポン

- パナナと日本人
- 検証東大病院 封印した死
- 葬られた原発報道

ほか

情報提供

Tansa は皆さまからの情報提供をお待ちしています。

特に政治的・経済的・社会的権力の内部にいて、それら権力の不正や腐敗、不正義を知り得る立場の人たちからの内部情報は、被害を受けている人々を救うことになります。

情報提供の詳しい方法は、ウェブサイトからご確認ください。

情報提供用メールアドレス：tansa.info@protonmail.com



保身の代償
―長崎高2 いじめ自殺と大人たち―
2017 年、長崎にある私立海星学園で高校 2 年の生徒が自殺した。両親は奔走し、わが子がいじめを苦に自殺した事実を突き止める。しかし海星学園は、いじめの事実を認めなかった。そればかりか、自殺ではなく「突然死」にする提案を遺族に持ちかけ、地元行政の長崎県も学校の姿勢を容認した。自殺から 6 年。さらに共同通信と長崎新聞が、新たに遺族の前に「壁」となって現れ、遺族の行く手を阻んだ。いじめ自殺の再発を防ぐため、献身するべき大人たちが保身に走り、いじめ自殺の構造が温存される。この国でいじめ自殺が繰り返される。保身の代償はあまりに大きい。



農業ネオニコチノイド
農業・ネオニコチノイドによって子どもの健康が脅かされている。コメや果樹などに広く使用されている殺虫剤で、日本の研究者が 1990 年代に開発し、世界中で大ヒットした。だが 2000 年代に入ると、害虫だけではなく哺乳類であるマウスの神経も攻撃することが明らかに。10 年ほど前から、人体への悪影響を世界中の研究者が指摘するようになった。EU や米国ではネオニコの使用を制限している。ところが日本では行政が農家にネオニコの使用を推奨し、今も大量に使われている。問題は、ネオニコが脳の神経に作用し子どもの場合は大人よりも影響を受けやすいということだ。なぜ、子どもを危険に晒してまで日本ではネオニコが使われ続けるのか。



産業労働組合弾圧
警察と検察が一体となって、労働組合を弾圧している。弾圧されているのは、全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部。通称「関生支部」だ。関西で生コンを運ぶミキサー車の運転手らでつくる労組で、幹部と組合員が関西全域で次々に逮捕されている。2018 年からの逮捕者数は、延べ 89 人に上る。関生支部は日本では数少ない産業労働組合だ。大企業の正社員だけが社内をつくる「御用組合」とは違う。所属会社に関係なく業界全体の労働者のため、給料アップや休日の取得などを実現してきた。なぜ警察と検察は、憲法に保証された労働組合活動を蹂躪してまで関生支部を弾圧するのか。そこに国家の意思はあるのか。

(財)荒井財団

WALTON FAMILY
FOUNDATION

OPEN SOCIETY
FOUNDATIONS

LUSH FRESH
HANDMADE
COSMETICS

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 Tansa
代 表 理事長 渡辺周
住 所 105-0013 東京都港区浜松町 2-2-15 浜松町ダイヤビル 2 階
サイト 日本語 tansajp.org / 英語 en.tansajp.org
連絡先 contact@tansajp.org

役 員
理事長／編集長 渡辺周
理事 辻麻梨子、中川七海、荒井喜八郎
監事 松井香

顧問弁護士 喜田村洋一

メルマガ登録

記事リリースやイベント開催のお知らせ、取材の裏話、編集長やリポーターたちのコラムをお届けしています。登録は無料です。メルマガ限定の情報もありますので、ぜひご登録ください。



<http://eepurl.com/hslUsf>

SNS で最新情報を発信中

日本語 @Tansa_jp
英 語 @ tansa_english

YouTube Tokyo Investigative
Newsroom Tansa

Instagram @tansanewsroom

受賞歴

- 2017 年 シリーズ『買われた記事』 / 日本外国特派員協会 (FCC) 「報道の自由推進賞」
- 2018 年 シリーズ『強制不妊』 / 反貧困ネットワーク 「貧困ジャーナリズム大賞」
- 2019 年 データベース『JUDGIT! 』 / Linked Open Data チャレンジ Japan 2019 アプリケーション部門「優秀賞」
- 2020 年 データベース『JUDGIT! 』 / 一社オープン＆ビッグデータ活用・地方創生推進機構「最優秀賞」
報道機関「ワセダクロニクル」 / ジャーナリズム支援市民基金「ジャーナリズム X アワード大賞」
- 2022 年 シリーズ『公害 PFOA』 / 一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ「PEP ジャーナリズム大賞 & 課題発見部門賞」
シリーズ『双葉病院 置き去り事件』 / SOPA 2022 Awards 「The Society of Publishers in Asia Awards 2022」、ジャーナリズム支援市民基金「ジャーナリズム X アワード大賞」
- 2023 年 シリーズ『公害 PFOA』 / メディア・アンビシャス「2022 年メディア・アンビシャス大賞【活字部門】優秀賞」



財務報告

経常利益	受取会費	¥218,500
	受取寄附金	¥24,068,165
	受取助成金等	¥31,220,396
	事業収益	¥4,728,840
	その他収益	¥184,087
	合計	¥60,419,988
経常費用	事業費（人件費）	¥5,930,632
	事業費（その他経費）	¥14,677,786
	管理費（人件費）	¥1,105,215
	管理費（その他経費）	¥6,714,833
	合計	¥28,428,466
当期経常増減額		¥31,991,522
経常外収益		¥0
経常外費用		¥0
当期経常外増減額		¥0
税引前当期正味財産増減額		¥31,991,522
法人税、住民税及び事業税		¥0
前期正味財産額		¥18,054,973
次期繰越正味財産額		¥50,046,495

こちらは 2022 年度のレポートです。
過年度分やその他のレポートは
ウェブサイトにご覧いただけます。

Tansa では、サポーターを募集中です

Tansa は企業からの広告収入を受け取らず、独立した立場を守ります。また、誰もが探査報道にアクセスできるよう、記事の購読料もっていません。

活動を支えているのは、主に読者の皆さまからの寄付と助成金です。深く緻密な取材には、資金が必要です。サポートをお待ちしています。



寄付の種類

個人向け

- ◆ マンスリーサポート 毎月定額の寄付を、継続してご寄付いただけます（クレジットカード）
- ◆ ワンタイムサポート 任意の金額を、単発でご寄付いただけます（クレジットカード、銀行振込）
- ◆ メンバーシップ 特典付きの年間サポート会員です。まずはメールでお問合せください
- ◆ 物品サポート Tansa が公開している Amazon のほしい物リストから、物品を購入してご寄付いただけます（Amazon 経由・クレジットカード）
- ◆ キャンペーンサポート 応援したい取材テーマを指定してご寄付いただけます（クレジットカード）

法人向け

企業名義でご寄付いただけます。個別相談を受け付けておりますので、お問合せください。

なお、探査報道組織としての独立性を担保するため、進行中の取材内容によってはサポートをお断りする場合がありますのでご了承ください。

寄付の方法

クレジットカードの場合

Tansa の公式サイトからお申込みいただけます。



<https://tansajp.org/support/>

銀行振込の場合

金額は自由にご設定いただけます。下記の振込先にご入金の上、お名前、住所、振込名義、ご入金いただいた日付と口座（下記よりご選択ください）を、メール（support@tansajp.org）でお知らせください。ご連絡がない場合は寄付金として処理できませんのでご注意ください。振込手数料はご負担願います。

お問合せ

寄付サポートに関するお問合せは、support@tansajp.org へお願いいたします。

なお、公式サイトで公開している

「よくある質問&回答」もご参考にしていただけます。

◆ 三井住友銀行 浜松町支店（679）
普通預金 7775859 トクヒ）タンサ

◆ ゆうちょ銀行 一三八支店（138）
普通預金 1910105 トクヒ）タンサ
記号：11370 番号：19101051